

【エクアドル経済：2012年2-3月】

1. 国内経済

(1) エクアドル鉱業

3月5日、政府は中国鉱山企業 EcuaCorriente 社(ECSA)とサモラチンチペ県に位置するミラドール銅鉱床プロジェクトの鉱山開発契約を締結した。

パストル非再生天然資源大臣は当国初となる大規模開発プロジェクトであるとして、「事前調査によれば同鉱床の銅埋蔵量は50億lb。EcuaCorriente 社は向こう5年間に総額14億ドルを投資し、日量平均6万トンの鉱石採掘を予定している。契約の銅設定価格は4ドル/lb。銅の市場価格が上昇すれば、政府収益は増える予定である。ロイヤルティー料は銅価格4ドル/lbの場合6%、4~5.5ドル/lbの場合7%、5.5ドル/lb以上の場合8%となる。また、同社は採掘権料の前払金(anticipo de regalía)として総額1億ドルを政府に納めることとなった。契約日から120日以内に4千万ドルが支払われ、サモラチンチペ県の社会開発に充てられる。その後、3千万ドルが支払われ環境保全案件に、残り3千万ドルは鉱山開発のための発電施設建設に充てられる。契約期限は25年、政府は総額44億5800万ドルの収入を見込んでいる。2013年末から生産を開始し、2015年から本格的な生産を予定している」と述べた。

同日、環境人権団体に所属する8名の女性が当地中国大使館に赴き、書簡を手渡すとして建物の中に入り平和的占拠として居座り、プラカードを掲げ抗議の歌を歌った。警察は占拠者を引きずり出しバスにませ司法警察に移送した。

2. 対外経済

(1) 対中関係

2月17日、コリア大統領は、本年7~8月頃に中国より総額17億ドルの融資を新たに借入ると発表した。エクアドルは中国融資によってハイペースな投資を維持することができ、中国は原油供給といった保証に関心を示しエクアドルとの関係を緊密化した。

コリア大統領は外国人記者のインタビューに応じ、「中国からの融資額に制限はないはずだ。憲法で規定されている対外債務上限の対GDP比は40%、一方で現在の対外債務対GDP比は22%である。国際通貨基金(IMF)や世銀が我々に融資したような軍備まで担保に取ることは馬鹿げており、我々は完全に中国とともにいる。中国は過剰な流動性を有しているが天然資源が不足している。エクアドルは過剰な天然資源を有しているが流動性が欠如している」旨述べ、新規の融資は本年7~8月頃に供与されるとし、その他の詳細については言及しなかった。